



第195号(平成31年4月)

今号の写真:会津桜アスパラ

《 目 次 》

- 着任の御挨拶
- 人事異動のお知らせ
- トピックス
 - ・ 農業農村整備優良地区コンクールで全国水土里ネット会長賞を受賞!
 - ・ 南会津農林産物のモニタリング検査等に関する説明会
 - ・ 6次化商品の販売会を行いました!
 - ・ 南会津町におけるニホンジカに関する研究成果報告会
- 農林事務所からのお知らせ
 - ・ 緑の募金に御協力お願いします
 - ・ あいづ“まるごと”ネット会員募集について
- コラム
 - ・ 只見と熊本、2つの地域を結んだ絆の石鹸「NICO BABY」

平成31年4月19日発行 福島県南会津農林事務所

着任の御挨拶

このたびの人事異動により、4月1日付けで南会津農林事務所長に着任しました大友勇雄と申します。南会津勤務は平成14～16年度の南郷普及所以来2度目となります。

南会津のうりんニュースの年度当初の発行に当たり、着任の御挨拶を申し上げます。

今年度は5月1日から元号が新しく「令和」となります。当事務所におきましては、今後の南会津地域の農林業が、復興・創生期間後においても本県を牽引する地域として、「令和」の時代にふさわしい新たな飛躍が遂げられるよう、『流通・販売の強化』、『生産活動の拡大』、『生産基盤の整備』の3つの柱ごとに、現場を踏まえた施策をきめ細かに展開してまいります。

流通・販売の強化では、昨年度拡大した第三者認証GAPの取得促進について、オリンピック・パラリンピックへの食材提供や南会津からの発信を踏まえ、団体認証も含め更なる拡大を図ります。6次化商品については、HACCPと連携した食の安全性の見える化を進めながら、マーケット・インを基本とした魅力的なパッケージデザインへの改良、機動的な専門家派遣を通じた”売れる商品“へのブラッシュアップなど、戦略的に流通・販売の強化を図ります。

生産活動の拡大では、昨年8月、県内で初めて地理的表示(GI)保護制度に登録された南郷トマトの単収向上、きこの類の年間を通じた生産安定、地域内木材の利用促進について、これまで以上に支援してまいります。更に、日本穀物検定協会が主催する米の食味ランキングで、参考品種ながら特Aの評価を得た「里山のつぶ」の、更なる作付拡大と品質向上を進めます。また、これら生産活動の担い手である新規就農者、認定農業者などに対し、個々の経営戦略や発展段階に応じた支援を関係機関と共にゆるぎなく進めてまいります。

生産基盤の整備では、農業農村整備事業における新規調査地区の着実な事業実施、要望地区の採択に向けた計画精査、国の地区選定から3年目を迎えた「林業成長産業化地域構想」に基づく認証林の拡大と、南会津林業のブランド化を進めます。また、鳥獣被害の抑制や地域の森林づくりへの意識醸成を目指した里山林整備を引き続き実施してまいります。

以上の施策展開に当たりましては、現場の皆様の声を大切にしながら、職員一同一丸となって取り組んでまいりますので、御理解、御協力をよろしくお願いいたします。



福島県南会津農林事務所長

おおとも いきお
大友 勇雄

人事異動のお知らせ

4月の人事異動により25名が転出し、25名が新たに配属となりました。

転入者（カッコ内は旧所属等です）

● 所長	大友勇雄(生産流通総室)
● 総務部	永澤英樹(教育庁学校教育総室)、諸井雅樹(生活環境総室)、入部敦信(避難地域復興局)
● 企画部	保坂舞(相双農林事務所)
● 農業振興普及部 (南郷普及所)	積口和司(農業支援総室)、藤原かおり(森林林業総室)、伊藤恵造(会津農林事務所会津坂下農業普及所)、佐久間渉伍(生活福祉総室)、村越佳奈子(農業総合センター)、熊谷千敏(農業総合センター)、菅野寛人(新規採用)
● 農村整備部	渡邊長(県北農林事務所)、佐藤健一(農村整備総室)、山崎貴大(相双農林事務所)、今泉友希(新規採用)
● 森林林業部	丹治信博(県北農林事務所)、眞壁晴美(森林林業総室)、平野浩一(森林林業総室)、遠藤賢治(県中農林事務所)、佐久間一男(会津農林事務所)、白鳥亮介(相双農林事務所)、齋藤諒次(林業研究センター)、小泉匡平(相双農林事務所)、細澤めぐみ(森林林業総室)

転出者（カッコ内は転出先です(退職者含む)）

● 所長	服部実(農業総合センター)
● 総務部	橘潔(観光交流局)、戎谷晃(監査委員事務局)、山野目直人(会津児童相談所)
● 企画部	寺木領(会津農林事務所)、馬上雄大(文化スポーツ局)
● 農業振興普及部	佐藤博志(退職)、酒井雄二(農林水産総室)、黒津賢治(県中農林事務所)、薄瑤子(農業総合センター)、高田真美(農業総合センター農業短期大学校)、柳内柚香(農業総合センター)
● 農村整備部	小野裕司(県南農林事務所)、米倉一美(会津農林事務所)、薄葉孝太郎(いわき農林事務所)、伊藤沙英美(退職)
● 森林林業部	伊藤正一(相双農林事務所)、鈴木比良(県北農林事務所)、湯田信介(退職)、小林正光(会津農林事務所)、山河周(会津農林事務所)、常松美帆(県南農林事務所)、加藤翔子(森林林業総室)、吉田美穂(県中農林事務所)、須藤佳祐(県北農林事務所)

トピックス

農業農村整備優良地区コンクールで 全国水土里ネット会長賞を受賞！



県への受賞報告

平成22年～28年まで農業生産基盤整備事業を実施した只見町中朝日地区が、農業農村整備優良地区コンクールで「全国水土里ネット会長賞」を受賞しました。

当地区は、農地中間管理事業を活用した面的集積を行い、移動時間のロスなどを省いた効率的な営農を実現するとともに、大型機械の導入を進め生産コストの削減に努めております。

また、汎用化水田を活用した南郷トマトの栽培と共に、集落内に加工場と直売所を建設し、もち米を使った6次産業化も併せて推進中であり、これらの取り組みにより若者や地域住民の雇用に貢献していることが、全国の模範となる特に優れた地区として評価され、今回の受賞となりました。

今後も、地区内の枠を越えた幅広い人材と協力しながら、地域の若者の育成と新規就農を促し、地域に貢献していくことを期待しています。

(農村整備部)

南会津農林産物のモニタリング検査等に関する説明会

4月12日(金)、JA会津よつばにおいて、直売所の関係者などに向け、今年度の検査体制に係る説明会を開催しました。

説明会では園芸品目、山菜、きのこや加工食品等の品目ごとの検査体制について各担当者より説明を行い、参加者からも積極的な質問がありました。

今後は定期的なモニタリング検査結果の情報

提供などを行い、南会津管内の農林産物を一人でも多くの方に安心して召し上がっていただけるよう、引き続き取り組んでいきます。



説明会の様子

(企画部)

6次化商品の販売会を行いました！

3月16日(土)～17日(日)、アピタ会津若松店において、会津地方6次化商品づくり支援事業「会津の春」販売会を会津農林事務所と合同で開催しました。

会津地方6次化商品づくり支援事業は、当年度の新規開発商品について、バイヤー等販売のプロからのアドバイス等を受けることで商品改良を進め、その締めくくりとして、小売店で試食対面販売を実施することにより、更なる商品改良や消費者訴求及びリピーターの獲得につなげることを目的に実施しているものです。

当管内からは、目黒麴店(只見町)が出展し、ふくしま満天堂プレミアムに選ばれた「極みそ」を始め、昨年度より販売が開始された「玄米麴みそ 玄米美」などを販売しました。

販売会では、出展事業者がお客様一人ひとりに対し、商品の特徴や開発への思いなどを熱心に説明し、販売につなげていました。

当所では、今年度も6次化商品の開発や販路拡大について、専門家の派遣や交



「会津の春」販売会の様子

流会の開催による情報交換の場の提供などを通して支援を続けてまいります。6次化商品の開発等に関してお悩みがございましたら、お気軽に企画部までご相談ください。

(企画部)

南会津町におけるニホンジカに関する研究成果報告会

3月1日(金)、御蔵入交流館において「南会津町におけるニホンジカに関する研究成果報告会」が開催されましたので、概要を報告します。

南会津町ではニホンジカの生息数が年々増加しており、農作物被害が深刻化しています。また、車両の衝突事故等も報告され、平成30年度の町内での捕獲数は500頭に上ります。このような状況から、町では鳥獣対策専門員の配置や昭和村との広域対策協議会の設置、さらには大学との連携協定等を通じた生態の解明など、様々な対策を講じています。

報告会では、南会津町鳥獣対策専門員から被害状況や調査概要が報告されたのち、東京農工大学野生動物保護管理学研究室の学生から、季節移動の状況、雌雄の構成比や幼獣の多少による密度の将来予測、多雪地帯での餌の状況等の研究結果が報告され、また、福島大学共生システム理工学類兼子准教授からはDNA解析による遺伝的な特徴等が報告されました。

ニホンジカは、今後増加が予測されるため、研究成果を活用した更なる生態の解明や効率的な調査、捕獲体制を確立していくことに加え、近隣自治体と連携した対策が重要であると思われました。



報告会の様子

(農業振興普及部)

緑の募金に御協力をお願いします

毎年皆様にご協力をいただいている「緑の募金」の平成31年度春季募金が、4月1日から5月31日まで行われます。

ご協力いただきました「緑の募金」は、緑化に対する理解と認識を深めていただき、地域社会における緑化を積極的に推進するため、緑の少年団の活動支援や県内の学校、公共施設等に緑化苗木を配布する環境整備、地方植樹祭・育樹祭、学校緑化活動への支援などに活用させていただきます。

今年度は、「その手から つながる未来 広がる緑」を運動テーマとして、緑豊かなふるさと再生や豊かな森林を次世代へと引き継いでいくための活動を推進して参りますので、ご協力をお願いします。

(森林林業部)

あいづ“まるごと”ネット会員募集について

福島県では、豊かな地域資源を生かし、地域力(人材、資源、伝統)を発揮しながら、1次・2次・3次産業が様々な形で連携・融合した新たな地域産業を創出することで地域の活性化を目指す「地域産業6次化」を推進しています。

会津・南会津地方においても、農林漁業者や商工業者等で構成されるネットワーク「あいづ“まるごと”ネット」を組織し、「地域産業6次化」を進めるため、各種情報発信や、交流会の開催をしています。

会員向けメールマガジンにおいて、各種助成制度や商談会・物産展開催等に関する情報提供も行っておりますので、この機会にぜひ会員登録についてご検討願います。登録料・年会費ともに無料です。

●お問い合わせ先

南会津農林事務所企画部 TEL 0241-62-5252

お問い合わせはこちら

福島県南会津農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒967-0004 福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a>

電話 0241-62-5252 FAX 0241-62-5256

只見と熊本、2つ地域を結んだ 絆の石鹸「NICO BABY」

今年2月、只見町の只見農産加工企業組合「げんき村」から、じゅうねん(エゴマ)油入り石鹸「NICO BABY」が発売されました。

「げんき村」では、エゴマをメインとして栽培か



「げんき村」の斎藤幹子さんと「NICO BABY」

ら加工・販売を行っています。加工の過程で油に葉が混じるなどして販売に向かない物が生じますが、石鹸は、それらを原料に、熊本県の石鹸業者「Ladybug」と協力して開発しました。

只見と熊本、遠く離れた2つの地域を結びつけたのは、平成23年の新潟・福島豪雨災害と平成28年の熊本地震という2つの災害でした。豪雨災害時に熊本県の支援を受けた只見町は、熊本県が地震に遭った年には、熊本県の復興を願い、雪まつりにおいて熊本城の雪像を製作するなど、絆を深めてきました。

7ヶ月かけて開発された石鹸は、只見町の春をイメージした淡いピンク色をしています。アクセントとして加えられた茶色は春の雪山を表しているそうです。

エゴマには、炎症を抑える効果が期待されており、保湿効果も高いことから、肌の乾燥が気になる方に特にお勧めだそうです。

石鹸は、げんき村の店頭やオンラインショップで取り扱っています。1個100gで定価は2,000円(税込)ですが、定期購入の方には少しお得な料金でご案内することも可能だそうですので、詳しくはげんき村までお問い合わせください。

げんき村 : <http://www.egoma-tadami.jp/>
(企画部)



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。